

臨床研修センターだより



Vol.77 2020.7.31

●医科 1 年次の研修風景 後編

先月に引き続き、医科 1 年次の研修風景をお届けします。

■総合内科■

●毎日のカンファレンスの中で指導医の先生から自分のアセスメントに対して多くのフィードバックを頂けるので、自然と考える力が身につきました。教育的な先生方が多く、毎日が学びの連続で、成長できたと思います。(押川)



●総合内科では様々な背景を持つ患者さんを担当させてもらいました。鑑別疾患やプロブレムを自分たちで考え、また指導医の先生方から知識や考え方を教わりながら治療方針を立てていきます。3ヶ月間非常に充実した研修となりました。(黒田)



●初日から問診と身体所見の重要性を痛感させられ、以降も患者さんとの向き合い方、鑑別、プレゼン、病棟スタッフの皆さんとのコミュニケーションなど毎日勉強になることばかりでした、本当にお世話になりました。(堂畑)

●総合内科の研修ではバラエティに富んだ疾患のアセスメント・プランをそれぞれの患者さんの背景も併せて考えていくことを学んでいます。内科の学問的、技術的知識を学ぶだけでなく、医師としての立ち振る舞い方も先生方の背中から感じとりつつ、日々刺激的な毎日を送っています。(奈須)

■麻酔科■

●麻酔の管理は上級医と相談しつつ一人で行うことも多く、人の命を預かることの責任をより一層強く感じる研修期間です。術前に緊張した面持ちで言葉少ない患者さんに、術後朗らかな表情でありがとうと言われると、患者さんの人生の大イベントに自分が関わっているんだとやりがいを感じます。(小久保)



●麻酔科では全身麻酔下の患者さんの全身管理を学びます。また、静脈路・動脈路確保、挿管など様々な手技を経験することもできます。残り少ない期間ですがさらに多くのことを学びたいと思っています。(長谷川)



●麻酔科研修では静脈ライン、動脈ライン、気管挿管、マスク換気など様々な手技を経験することができます。手技のコツも麻酔薬の特徴も、一つずつ丁寧に指導医の先生が教えて下さり、非常に有意義な研修だと感じております。(藤原)

●麻酔科では気管挿管や動脈ライン確保など、初期診療でも使える手技の経験が積めます。一つ一つの手順を手厚くご指導頂けるので毎日充実しています。医療全般に通じる技術を身につけられるので、一層気が引き締まります。(古庄)

●呼吸器外科研修

6月塚本先生、7月鎌田先生が呼吸器外科で研修をしました。呼吸器外科の特徴やどのような研修ができるか青山医長より伺いました。

呼吸器外科の仕事、当科の特徴

当院の呼吸器外科は主に肺腫瘍（原発、転移）・気胸・膿胸などの肺疾患・縦隔の手術、外科的肺生検のほか、胸部外傷の治療を行っています。2019年は全身麻酔症例391例でした。日本全体の呼吸器外科手術は、約700施設で8万件行われていることからすると、その約0.4%を当科が担っています。日本全体で肺癌手術の約3分の2が胸腔鏡手術で行われていますが、当科では肺癌手術の98%（2019年）を胸腔鏡で行い低侵襲手術を心がけています。また当院救急医療の特徴を反映して、外傷に対する手術症例が多いことも特徴です。（2019年は16件、全国で500件程度）

呼吸器外科研修で学んでもらいたいところ

初期研修では呼吸器外科研修は必修ではありませんが、外科系志望だけでなく内科系志望の研修医の先生にもぜひ選択することをおすすめします。スタッフは肺癌診療（手術、外来など）をメインとしていますが、初期研修医の先生には、手術に関連しては術前評価、創の縫合、胸腔ドレーンの抜去、退院までの管理を学んでいただけます。これら以外に、入院中、外来患者さんの胸腔穿刺、トロッカー挿入、チェストドレーンバッグの管理（自分で作成するとより理解が深まります）を専攻医、スタッフの指導のもと十分な経験を積むことができます。胸腔ドレーンに関連するインシデントは例年多数報告されており医療安全の観点でも習熟しておくことが望ましい知識です。また肋骨骨折・血気胸・肺挫傷などの胸部外傷症例（手術、保存的）の経験も積むことができます。保存的加療と手術加療の適応判断、遅発発症の気胸や胸水貯留なども知っておくと軽症の患者さんへの帰宅時の説明もスムーズにできます。週に2回、呼吸器内科、放射線治療科と症例カンファレンスを行い、手術、全身療法、放射線治療をどのように患者さんに提供していくか、週に1回術前症例カンファレンスで手術術式、リスク因子に対する対応などを間近で学べます。呼吸器外科研修は、将来どの科に進んでも役立ちます。特に呼吸器内科、救急部、呼吸器外科以外の外科系に進む先生にはぜひ呼吸器外科研修を選択してください。なお6月に当科を研修した塚本先生は、胸腔穿刺2回、アスピレーションキット挿入4回、トロッカー挿入4回を経験しました。7月からは鎌田先生が研修しており、7月27日現在、胸腔穿刺を3回経、アスピレーションキット挿入3回を経験してもらいました。当科の最新情報はFacebookページも訪問ください！

研修医の声

研修医2年目の塚本信哉です。私は呼吸器内科志望だったので、外科ローテの1ヶ月で呼吸器外科を選択しました。当初は胸腔ドレナージの手技に興味があり、結果として胸腔ドレーン挿入4例、アスピレーションキット挿入4例、胸腔穿刺2例を経験できました。ドレーン挿入は苦戦しましたが、先生方が呼吸器外科の視点で解剖学的知識を交えて教えてくださいました。さらに、ドレーンの仕組みや管理の方法についても学ぶことができました。

また日が経つにつれ、手術もおもしろいと感じるようになり、胸腔内の構造や肺全体を生で見たり、肺に実際に触れたりできたのは貴重な経験でした。真皮縫合やドレーン固定のための糸結びも基礎から丁寧に教えてくださいました。科の雰囲気も非常によく、楽しく充実した研修を送ることができました。1ヶ月間、ご指導いただきありがとうございました。（塚本）



▲ドレーン抜去と縫合



▲エコー



▲トロッカー挿入



▲胸腔穿刺



▲ソーシャルディスタンスをとったカンファレンス



▲手術の開創中



▲摘出肺の縫合